

事業報告書（令和5年度）

事業名 子どもと大人で考える、生きたい社会のつくりかた。～堀越けいにんさんお話し会～

団体名 私の学校準備室 Kodona 担当者名 西田 美穂

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

【日時】

2023年7月16日（日）

[午前の部 子ども向け授業] 10:00～11:30

[学びが繋がるお昼タイム] 12:00～13:30

[午後の部 大人向け授業] 14:00～16:00



【場所】

岡山県生涯学習センター 美術教室

太陽の丘公園



【参加対象】小中高校生、保護者、地域の大人の方

【人数】約70名

【内容】

◆◆◆ 午前の部 ◆◆◆

堀越けいにんさんお話し会 『生きたい社会のつくりかた ～子ども向け～』

自分らしく生きる「人権」ってなんだろう？環境・社会活動家の堀越啓仁さんを先生としてお迎えし、【環境】と【動物】という視点からお話いただきました。



飼っている猫の写真や、ナマケモノのお母さんがどう行動するか映像など、子どもが興味を持ちやすいところから始まり、環境や動物を大切にすることが人間にとっても重要であることを教えてもらいました。

後半は社会の仕組みを作っている国会の役割についてや、民主主義についても子ども向けにわかりやすくお話があり、「AでもBでもない、Cという答えもある」という言葉には多くの保護者さんやお子さんが頷いておられました。

子どもにも権利がある、みんなの力で社会は変えられるんだ、という力強いメッセージ性にあふれ、子どもたちも引き込まれるように真っすぐな眼差しで聞いてくれていました。



◆◆ 学びがつながるお昼タイム ◆◆ 「私」が選ぶ“思いやりごはん”

火起こしで炊いた羽釜ごはんと味噌汁を、太陽の丘公園でみんなでいただきました。無農薬のお米と野菜、平飼卵を使用しました。

当日食べた食材と、普段スーパーなどで売られている食材を比べ、それぞれの作られ方や、社会的問題点などを示した食育パネルを展示しました。

また、乳製品を使わずオーガニック認証の素材を使ったエシカルジェラートも食べていただきました。





食育パネル① お米と野菜

取材先：倉敷市 無農薬農家さん

農薬の影響

食べることは、お米と野菜

食の安全と健康を考えると、野菜の化学肥料の削減が最も重要である。以下に、野菜の生産に必要となる肥料の種類と、その削減の重要性について説明する。

野菜の生産には、窒素、リン、カリウムなどの肥料が必要である。これらの肥料は、野菜の成長を促進し、収穫量を高めるために使用される。しかし、化学肥料の過剰使用は、土壌の劣化や地下水の汚染を引き起こす可能性がある。

また、化学肥料の使用は、環境への負荷を増加させる。窒素肥料の過剰使用は、河川や湖沼への流出を引き起こし、富栄養化の原因となる。リン肥料の過剰使用は、海洋への流出を引き起こし、赤潮の原因となる。

したがって、野菜の生産に必要となる肥料の種類と、その削減の重要性について説明する。また、化学肥料の使用を削減するための具体的な方法についても説明する。

化学肥料の使用を削減するための具体的な方法としては、有機肥料の使用や、堆肥の利用などが挙げられる。また、水肥一体化技術の導入や、精密農業の実施なども有効である。

以上、野菜の生産に必要となる肥料の種類と、その削減の重要性について説明した。化学肥料の使用を削減することで、野菜の生産はより持続可能なものとなる。

野菜

野菜は、私たちの健康に欠かせない食品である。野菜には、ビタミン、ミネラル、食物繊維などが豊富に含まれており、がんや心臓病などの生活習慣病の予防に効果的である。

また、野菜は、環境にも優しい食品である。野菜の生産には、化学肥料の使用を削減することで、環境への負荷を減らすことができる。

したがって、野菜の生産と消費を促進することで、私たちの健康と環境の両方を保護することができる。

ネオニコチノイド系農薬とは

1990年代から普及し、世界中で害虫防除に大量に使われる殺虫剤となった。神経毒性、水溶性、残留性が特徴で、神経毒性の強さや、呼吸器や皮膚への影響が危惧され、世界では使用規制が進められたり、使用禁止になる国が増える中、日本では一般的に使用が認められており、使用量も増加している。

国	2010年	2011年	2012年
中国	2.14	2.11	2.05
インド	2.13	2.11	2.05
ブラジル	1.98	1.96	1.92
アメリカ	1.1	1.1	1.1
日本	0.07	0.07	0.07
韓国	0.01	0.01	0.01
オーストラリア	0.01	0.01	0.01
ドイツ	0.01	0.01	0.01
フランス	0.01	0.01	0.01
イタリア	0.01	0.01	0.01
スペイン	0.01	0.01	0.01
ロシア	0.01	0.01	0.01
インドネシア	0.01	0.01	0.01
タイ	0.01	0.01	0.01
フィリピン	0.01	0.01	0.01
ベトナム	0.01	0.01	0.01
インドネシア	0.01	0.01	0.01
タイ	0.01	0.01	0.01
フィリピン	0.01	0.01	0.01
ベトナム	0.01	0.01	0.01

石原農園

自然に学ぶ

自然に学ぶとは、自然の恵みを受け、自然の循環を学び、自然の恵みを活かすことです。自然に学ぶことで、自然の恵みを最大限に活用し、自然の循環を学び、自然の恵みを活かすことができます。

また、自然に学ぶことで、自然の恵みを最大限に活用し、自然の循環を学び、自然の恵みを活かすことができます。自然に学ぶことで、自然の恵みを最大限に活用し、自然の循環を学び、自然の恵みを活かすことができます。

以上、自然に学ぶとは、自然の恵みを受け、自然の循環を学び、自然の恵みを活かすことです。自然に学ぶことで、自然の恵みを最大限に活用し、自然の循環を学び、自然の恵みを活かすことができます。

石原農園のお米

自然に学ぶ

自然に学ぶとは、自然の恵みを受け、自然の循環を学び、自然の恵みを活かすことです。自然に学ぶことで、自然の恵みを最大限に活用し、自然の循環を学び、自然の恵みを活かすことができます。

また、自然に学ぶことで、自然の恵みを最大限に活用し、自然の循環を学び、自然の恵みを活かすことができます。自然に学ぶことで、自然の恵みを最大限に活用し、自然の循環を学び、自然の恵みを活かすことができます。

以上、自然に学ぶとは、自然の恵みを受け、自然の循環を学び、自然の恵みを活かすことです。自然に学ぶことで、自然の恵みを最大限に活用し、自然の循環を学び、自然の恵みを活かすことができます。

食育パネル② 卵 取材先：岡山市 平飼い養鶏家さん

卵のことを知ってやさしい選択も

この卵は卵を産む環境
(フリーレンジ)



こちら
平飼い養鶏場
地面を自由に回れる



日本の状況
日本はバタリーケージの使用に
規制がなく、2014年時点で92%
がバタリーケージ飼育、2020年
IEC(国際鶏卵協会)データによると
94.1%がバタリーケージ飼育
となっている。(wikipedia)



バタリーケージ飼育
実際は...
見ても平飼い
ケージ飼育
のことだと感じました...

タマゴが安く買えるワケ

肉食からみる社会



日本は世界2番目の
タマゴ消費大国です。



日本では1人当たり年間340個の
タマゴ消費量があります。(2020年)

私たちの食卓を彩るタマゴ、どうやって
生産されているか知っていますか？



日本の養鶏の約94%が、
バタリーケージ飼育です(2020年)。



バタリーケージとは、クワイヤーでできた籠で、
1羽の卵を産むスペースは
1羽に同じくらいの面積しかありません。

安いタマゴの値段にはワケがある？



バタリーケージで飼育される鶏は、
クワイヤーを乗り越えたりして逃げ回ることが、
できません。卵を産まない鶏は生まれてすぐ
処分されてしまいます。

諸外国は、アニマルウェルフェア(動物福祉)
の観点からバタリーケージ禁止に
向けて動いています。

国	2017年よりバタリーケージ禁止
米国	23年より25%の卵がケージフリーに
タイ	20年より後のケージフリー産卵を承認
韓国	22年よりケージフリーに卵を輸入
オーストラリア	26年よりケージフリー産卵の可視化
スイス	ケージフリー産卵

私たちにできることは？



ケージ飼いの卵 ¥100 個 ¥320
平均的卵 ¥400 個 ¥150

「価格の格差」と呼ばれ、
安いことが当たり前になっている卵。
それを求めるのは、消費者である私たち。
だからこそ、私たちのケージフリーで
買える卵があるのではないのでしょうか？

もっと知ろう！

私たちが毎日食べる卵が
どう生産されているのか、もっと知ってあげませんか？

バタリーケージ卵



「アニマルウェルフェア」は「動物は生まれてから死ぬまでその動物本来の行動
を取りることができ、幸せに受けなければならない」とし、家畜のストレスが少なく
行動要求が満たされた健康的な生活ができる飼育方法を目指す
畜産の在り方だ。
2023年6月28日農林水産省が「畜産飼育環境」に指針を発表した。
「採卵鶏は自然な姿勢で行動できる飼育密度に引き上げ、これは決して
ではなく「やれる外はやり方」という姿勢でデータ分析を深めたいことだとしている。
生産者に対して支援がなければアニマルウェルフェアに切り替えることは難しい
と思っております。アニマルウェルフェアに取り組む生産者に補助金があり、
飼育方法による卵の価格の違いがなければ、ニトリに無理の
ない方法で生産された卵の方が魅力的ではなってしまうか。

～平飼い養鶏家の平飼い養鶏場見学～











乳牛のことを知ってできることを考えよう

乳牛の一生

スーパードライは、産む前に凍らせている牛乳。その牛乳を私たち人間に与えてくれるのは、どういった家畜なのか。まずは牧場を見学しよう！そして、購入基準を確認しよう！

—アニマルウェルフェア—

子牛と離れ離れ

子牛は生後すぐ母親から引き離され、人工乳で育てられる。

本来、子牛が母乳を飲むより早くに、子牛は人工乳を飲む。

品種改良

本来の母乳量の約2倍のミルクを作るように品種改良。→品種改良

本来 1,000g/日
品種改良後 2,000g/日

かららに動物が持つから、乳牛も大変な生き物である。

狭い牛舎で働けない

飼料の量が足りない多量飼料

1頭20kg程度は必要。コンクリートにして、そこに水を貯る必要がある。コンクリートにしてはダメなため、その間に飼料が腐敗してしまっている場合もある。

出産しては妊娠の繰り返し

産まないでミルクを出さない。胎児が1ヶ月後には、人工授精で妊娠させられる。

妊娠期間を繰り返す。子牛は産まれた後、産後2週間程度は人工授精を続け、産後2週間程度は人工授精を続け、産後2週間程度は人工授精を続ける。

最後は肉用に

5~6年乳牛として飼育期間で飼育され、最後は肉用として殺される。

肉用は、骨身に肉が詰まっているほど良い。肉質が良いほど、肉質が良いほど、肉質が良いほど。

無痛で角切

無痛で角切は、角切の方法が重要で、リストが切れるための無痛で切れる。

角切は、角切の方法が重要で、リストが切れるための無痛で切れる。

私たちにできること

- ・エシカルな消費の意識から購入
- ・乳製品、肉製品
- ・アニマルウェルフェアについて学ぶ
- ・アニマルウェルフェアを推進しよう

Instagram @healthandhonesty 探検隊

乳用の牛とは

人間と同じで牛も子どもを産まなければ牛は出ません。
「乳牛」という種類の牛がいるわけじゃないです。
飼育方法は畜産技術協会のアンケート調査によると、日本の農家の72.9%が「らなき(飼育)」の方針をとっている。

「らなき(飼育)」とは、牛舎に閉じ込められていない牛(ARC)。

「フリーレンジ(常飼)」とは、牛舎に閉じ込められていない牛(ARC)。

「フリーレンジ(常飼)」とは、牛舎に閉じ込められていない牛(ARC)。

「フリーレンジ(常飼)」とは、牛舎に閉じ込められていない牛(ARC)。

乳牛のライフサイクル



生まれてから13~16ヶ月後に初めて人工授精。その後10ヶ月は産後期間。人間と同じだ。出産後、搾乳。子牛はすぐ引き離され、母の乳からは母乳は飲まない。出産後1~2ヶ月でまた次の人工授精。この後2ヶ月は産後期間。出産→搾乳→人工授精。と繰り返される。出産前の2ヶ月ほど乾乳期間を除いて、乳用の牛は搾乳を繰り返されている。

辛すぎる乳牛への虐待のニュースがありました。大事なものは、アニマルウェルフェアをわが家から「常飼」にしたいです。それが搾乳(乳牛)の苦痛と酪農家の苦痛、苦痛を無にするにつなげる。誰かを攻撃しても何も解決しない。解決の糸印は常に自分に向けよう。彼等たちの尊厳のために。

アニマルウェルフェアとは

アニマルウェルフェアとは、動物が生きてから死ぬまでの身体的、心的状態のこと。その改善は畜産業者だけでなく、消費者や企業の協力も不可欠となっている。

アニマルウェルフェアの基本原則「5つの自由」

1. 飢え、渇きの自由
2. 不快な環境からの自由
3. 痛み、怪我、病気からの自由
4. 恐怖、ストレスからの自由
5. 自然な行動を表現する自由

アニマルウェルフェア改善のためにできること

- 1. 畜舎環境の改善
- 2. 畜舎環境の改善
- 3. 畜舎環境の改善
- 4. 畜舎環境の改善
- 5. 畜舎環境の改善

アニマルウェルフェアの改善は持続可能な社会SDGsの実現に貢献します。

「アニマルウェルフェアの5つの自由」家畜を快適な状態に保つことは、畜産経営の持続可能な基盤を高め、牛の働く環境を改善し質の良い畜産物の供給に役立ちます。SDGsの中でも、目標2「飢餓をゼロに」、目標8「働きがいと経済成長を」、目標12「責任ある消費と生産」、目標13「気候変動」に具体的な対策などの実現に関わっています。

アニマルウェルフェアとは (デザイン: 増淵舞)

北海道大学大学院農学研究院准教授 / 清水池義治

「らなき(飼育)」とは、牛舎に閉じ込められていない牛(ARC)。

「フリーレンジ(常飼)」とは、牛舎に閉じ込められていない牛(ARC)。

「フリーレンジ(常飼)」とは、牛舎に閉じ込められていない牛(ARC)。

2 ZERO HUNGER
8 DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH
12 RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION
13 CLIMATE ACTION

◆◆◆ 午後の部 ◆◆◆

堀越けいにんさんお話し会

『どうぶつのお話 ～キーワードで読み解く命と社会のつながり～』

午前の子ども向けのお話を大人向けにした内容で、より深い説明を資料や写真などを使い展開していただきました。



●家畜から出るCO₂排出量が、車・船・飛行機の排出量を超えているお話、120億人分の食べ物が作られているがフードロスのため10億人が食べ物を得られていない状態であることなどの環境問題

●噛み合い防止のため子どもの時に歯を全部抜かれる、妊娠中に寝そべることもできない狭さのケージに入れられるなど、動物福祉を無視した環境で飼養されている豚が、本当は30の言葉を持っている知能の高い動物で、子豚に子守歌を聞かせながら授乳するという事実

●「バタリーケージ」と呼ばれる檻に複数羽が詰め込まれている鶏も、27の言葉を持っている知能性のある動物で、砂浴びで清潔を保ったり、土を掘るなどの本来の習性ができない状態で飼われているため病気が発生し、薬品で消毒して商品にされていること
(日本の平均的なバタリーケージでは1羽あたりB5ノートくらいの面積しか与えられない)



●牛乳パックに描かれている青空と緑の放牧の姿？、実際には日本の9割以上が首を上下にしか動かすことができない鉄の輪で固定された「繋ぎ飼い」で、一生青空を見ることがないことや、劣悪な環境が狂牛病につながっているお話



など、人間として環境とどう向き合い、どう生きるかを考えさせられる内容でした。また「アニマルウェルフェア」(動物福祉)が人畜共通感染症を防ぐキーワードだということも、教室にいる全員が納得できるようなお話でした。

午後、繋ぎ飼いの牛の乳を使用せず、オーガニック認証の材料を使ったエシカルジェラートとコーヒーを皆さんに味わっていただきながら、お話を聞いていただきました。



2. ESDの視点

① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

参加していただいたみなさんには、動物や環境、地球のバランス、フードロスのことなどを、自分事として考えていただけるようになったと思います。

子どもたちは家に帰ってからもお話の内容について家族と話した、また大人の方はご友人に共有された、という感想をいただきました。

食べ物を購入する時に考えるようになったというご報告もいただきました。



② どのように学び合いを取り入れたか

お話後の質問タイムでは、各々が付箋に質問を記入し講師の方に渡しました。お話中は講師の言葉に耳を傾げるだけだった参加者も、他の人の質問と講師の回答を聞いて新たな発見をし、そこから次の質問に繋げるなど、会場全体で双方向・全方向の学び合いができました。



お昼タイムは、食材についてのパネル展示をしたおかげで、みなさん食べながらその話題について話し合う光景が見られました。



関わったスタッフの間では、イベントのために様々な情報共有をすることにより、これまでそれぞれの活動と結びついていなかった環境問題や動物の問題に焦点をあてることができ、より一層、視野が広がりました。

特に平飼卵については、何人ものスタッフが養鶏場に見学に赴いて、オンラインで写真を共有して報告し合うことで関心が高まりました。その結果、採卵率の落ちた廃鶏を引き取って自宅で飼う人が出てくるなど、後々までアニマルウェルフェアの温かい輪が広がっています。



③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

テーマに合った持続可能な食材（農薬不使用の野菜とお米、動物福祉に配慮した平飼い卵）を使い、授業の学びと結びつけました。

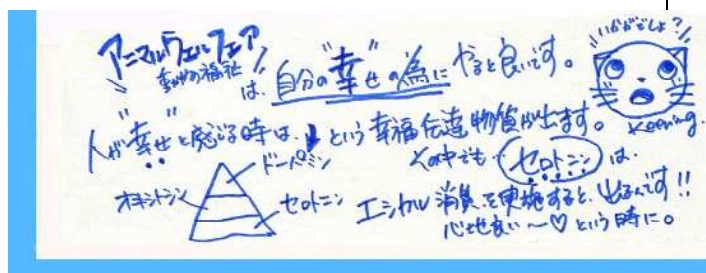
子どもたちは笑顔で「おいしい！」と言ってくれ、食育パネルについても全ては理解できないながらも、同じ空間で目にするにより、学びのインプットの機会となりました。

大人の方は、暑い中でもずっと立ってパネルを読んでくださっている方もいました。



また当日の様子や制作パネルの写真を SNS などでも報告することにより、当日参加できなかった方にも考えるきっかけとなっています。

パネルに意図的に残していた空白に、当日、講師の方が直筆で「アニマルウェルフェアとは」の文章とイラストを描いてくださったことで、私たちだけでは周知しきれない層（講師の名前を知っている全国の方々）にも、岡山での活動を知ってもらえたように思います。



また制作パネルは岡山環境教育ミーティングにも出展させていただき、環境問題に興味のある方にも「動物」の分野について見ていただくことで、学びの輪が広がっています。環境活動をされている方で「今日見た中で一番興味がありました」と言ってくださった方もおられました。



3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

成果として、参加者アンケートをご紹介します。

.....

▼お話の内容で、特に印象に残った内容があれば教えてください。

◎アニマルウェルフェア、鶏や牛の話は聞いたことがありましたが、映像で見てより理解できました。

◎意見をださなければ変わらない

◎「可哀想が理由なだけなら、とっくに解決してる。まずは消費者の選択、行動から。」

◎動物たちの現状からわたしたちの未来まで繋がっているということ

◎日ごろ子どもに伝えたいと思っていたこと、（民主主義は話し合いで、話し合いはめんどくさくて、面倒だけどAとBからCをつくるのがやっぱり大事なんじゃないか）ということが、分かりやすく、すべて盛り込まれていて、本当に良かったです。

◎どうぶつ達の環境と健康を守ることは、自然環境やわたしたち人間にも大きくかかわっている、無関心ではいられない、というお話がその通りだと思い印象に残りました。

◎自分は自分！自分の価値は自分で決めることができる！



▼【子どもの学び】 イベントに参加して、お子さんはいかがでしたか？お父さんお母さんから見たお子さんのご様子、またお子さん自身の感想を教えてください。

◎プラス4度の世界など環境悪化によるシミュレーション映像について帰宅後も何度か話してくれました。いろいろ子供なりに感じたことがあるようで、考えているようです。

◎世界が悲惨な状況になっていく未来の映像を見て、子どもが涙を流して途中で見れなくなっていた。自分に直ぐに変えてあげられない無力さともどかしさを感じた。

◎子どもより

- 分かりやすかった
- 民主主義って何となくしか分かってなかった
- 動物の話から入ったのが、自分の興味範囲だったから、真剣に聞いた
- 家畜、半端ないな

姉妹で聞きましたが、途中お互いに言葉を交わしたり顔を見合わせたり、真剣な表情で時間いっぱい集中して聞いているようすが、親ながらに新鮮でとても嬉しかったです。

◎心に残ったことは？「小さな命なんてないってこと。」



▼【大人の学び】 イベントに参加して、ご自身の気づき、気持ちの変化、行動の変化はありましたか？

◎牛乳や鶏の話は印象的でした。牛乳購入やめました。私自身の仕事が大変な時期と重なり、無理をして参加させていただきましたが、行ってよかったです。

◎私がこの最近検討している内容と通じるものがあり、独りよがりではないのだと自信になりました。やり方は異なるけど、最終目的や方向性が似ており、いろいろ背中を押してもらえました。

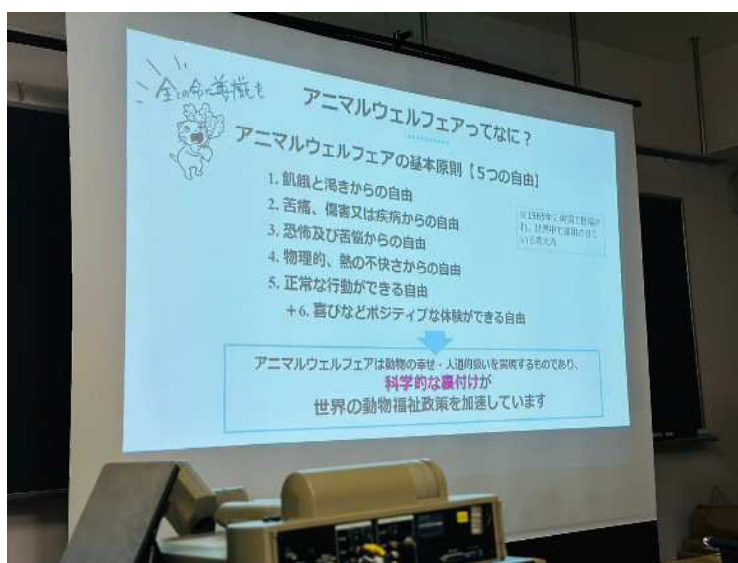
◎改めて、動物達の悲惨な状況を考えさせられました。

◎卵に対しての色々な思いが出てきた。

◎けいにんさんのお話をうかがうまで、動物の命が、尊い命でなく、単なる食べ物となっていました。麻痺していました。起こして下さって、ありがとうございます。

◎食の安全の勉強をしていますが、日本という国は、どこでも経済優先で、大切なものを忘れてしまっていますね、韓国では、お母さんたちが活動して学校給食が変わったそうで、私も同じ思いの方々とつながって、活動していきたいと思いました。家庭では、食を戦前の日本の食事に戻していきたいと思っています。できることからやっています。

◎アニマルウェルフェアを知ったことで より一層自然なものを口にしたいと思った。当日の夜、友人にこの話をシェアすることができました。



◎家畜に関する話をきちんと聞いたことが初めてでした。乳牛用の牛のメタンガスが環境にとっても影響していること、くらいしか知らなかったのが、家畜全体のことと今日の夜のメニューとのつながりは、あらためていい入口をもらえたと思います。

◎食べ物は日頃からできるだけ気にかけていますが、さらに知っていくこと、学ぶことや、地域の皆さんとの協力、自分だけでなく発信できることも大切だと感じました。

◎食材を選ぶ時に裏側の世界を考えて買い物をしようと思いました！

.....

▼その他メッセージ

◎けいにんさんの講演会のみ参加でしたが、居心地のよい場でした。展示も、皆さんの思いに触れられて、よかったです。他には参加していませんが、素晴らしい企画だと思いま

(様式第8号)

した。スタッフの皆さんの、思いやパワー、あたたかい人柄、創造する力、すばらしいです。ありがとうございました。



(参加者から事前に募集したメッセージで作った「私の生きたい社会」アート展示のサプライズ)



◎暑い中、またたくさんの準備が同時進行中、みなさま本当にありがとうございました。食育のパネルなど、良ければまたFacebookなどで流してください。みなさまとお仕事したい！と感じるお仕事ぶりでした。お疲れ様でした。

◎人権問題、環境問題、子供たちが生き生きと楽しく生きるためのヒントをもらえたようで親子共々、素晴らしい時間を過ごせたと思います。鶏について、数ヶ月前にたまたま読んだ本から平飼いたまごを買うようになったわが家です。とても共感しながら学ぶことができました。子供も大人も一緒に学ぶ機会があるのは嬉しいですね。

◎メッセージボードや、レインボーボードなど、スタッフさんの想いや熱が伝わってくる講演会でした。けいにんさんの事をよく存じ上げないまま参加させて頂きましたが、真摯に動物達と人の現状や問題に向き合い、行動されていらして、素晴らしいと思いました。私も出来ることから、生き物すべてが幸せに暮らせる未来へと向かって行きたいと思います。



◎活動助成をとられたり、アイスを作られたりと、実際に活動を広げられていることに、感動しています。ますます、素晴らしい活動に進んでいかれるのを感じます。

◎大人の学びが子どもの育ちにつながると思います。けいにんさんお話会、子ども向けの開催、本当にありがとうございました。

◎参加させていただき、沢山の学びがありました。お話はもちろんの事、スタッフさんの準備や協力、当日の運びが素晴らしいところも見ていて勉強になりました。優しさが詰まってました。ありがとうございました ^^

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

環境問題が叫ばれ、その後 ESD の概念ができて早や 20 年が経とうとしています。当時に比べると、人々の環境意識の向上や、ゴミのリサイクルなど具体的なシステム整備も進んでいるように思えますが、畜産動物や実験動物に対する動物福祉、農薬・抗生剤などの生物濃縮を原因とした人間の病気、人畜共通感染症に関連する分野では、法律整備も人々の意識向上も進んだ印象はありません。

👉 生態系と「私」の繋がりに気づく機会が減ったまま

その原因として、環境教育や食育に関して、小学校や家庭において、ただの知識学習(座学)にとどまりがちで、子どもも大人も自分事として向き合えていないことがあると感じます。(親や先生が「他人事」なので子どもも「他人事」)

当団体が取り組むテーマの 1 つ “ワンヘルス” の中でも、除草剤が生態系に与える影響や動物福祉の問題は、世界的に見ても日本は恥と言えるほど大きく遅れをとっています。知るだけでなく自分たちの消費生活にまで落とし込むためには、小学校や学童保育、オルタナティブスクールでの体験学習(アクティブラーニング)が必要と感じます。

今回の事業では、身近な食を入口として参加者が実際に体験することで、「私と動物や植物って繋がっているなあ」と感じてもらえたと思います。

そして地球全体の環境へと学びの範囲や視野を広げ、社会の一員として何ができるのかを考え、行動に移すような輪が広がりました。

海も山もあり、発展した街もあり、豊かなように見える岡山ですが、たとえば繁華街のアーケードの上がどうなっているか、知っていますか？

人間の消費活動のためだけに作られた街、コンクリートで塗り固められた人工物の集合体を、屋上から初めて見させてもらって、私は呆然としたことがあります。

ただ写真を見るよりも実際に出かけて行って現場の空気に触れる、そのひとつの体験こそが、自分事として考えるための鍵になるのだと思います。

この岡山で暮らす子どもから大人までが、他の人ではない「私」の知恵と、限りある資源を上手に使い、持続可能な地域発展をしていくために、当団体は今後も、身近なことを切り口にして、環境と人間の繋がりを伝えていく活動を続けたいと思います。

